



7月えんだより

2017年 7月1日

社会福祉法人神戸YMCA福祉会
幼保連携型認定こども園
西宮YMCA保育園
園長：谷川 尚

2017年度年間聖句：

「あなたがたは神に愛されている子どもです」

エフェソの信徒への手紙5章1節

7月聖句：「天よ、喜び祝え、地よ、喜び躍れ」

詩篇96編11節

梅雨時は外にも出られず、じめじめとうっとおしさばかりが募る日々ですが、少しの晴れ間の中で植物の生長や虫の変化をとらえる子どもの視点に、夏の訪れを気づかされます。大人は天気予報を見ては天候を憂いたり、夏の暑さや湿気が増えてくることを考えては気が滅入ったりと、先を知識と理屈で考え心を悩ませます。子どもは、その時その時の変化や新しい発見など、今、目の前にあることに心を動かして、喜びを感じているのだと、日々の保育の中で子どもの豊かさを改めて気づかされます。

日本の教育は、ほぼ10年ごとに教育の在り方を考え直して新しい指針が発表されます。近年も「ゆとり教育」の見直しがなされたことは皆さんの記憶に新しいことでしょう。その新しい指針が発表されるのがちょうど今年なのです。今年に広く周知して来年度よりその発表されたものに基づいて教育が行われるようになります。例えば学校教育では知識の積み重ねから知識を課題解決に向かう力に役立たせるような学び、主体的かつ対話的な学びが求められていきます。同様に乳児・幼児についても、幼稚園、保育所そして認定こども園のありようについても改定が行われます。その中では、小学校へのつながりや、子育て環境の社会的変化に伴う支援のありよう、大災害に対する備えなども盛り込まれていますが、何よりさらに質の高い教育・保育の実践を求められるようになっています。これは先月にもお伝えしたような幼児期の教育がその後の育ちに与える影響の大きさが社会的にも関心を集めていることが大きな一因にもなっているように思います。

私たちはついつい教育というと何かを伝え、何かを学ぶことが大切と思いがちです。何かをしたらその分得るものがあるべき、という資本主義社会の原理をついつい子育てにも置き換えてしまうほどです。でも立体パズルをして育った少年が将棋のプロになるからと言って、立体パズルをさせたらだれでも知能があがるほど、子どもの育ちは簡単なものでないと常々感じています。子どもの育ちの場面で、大きな変化を見せるのは「自らの心が動く」時です。大人の原理でなく、子どもの視点に立って、心が躍り、喜びの中で感じ学べる経験ができるよう、私たちは子どもにかかわっていくことが何より肝要であると感じています。このたびの教育のありようにも「主体的な学び」と書かれているのはそうした一端であると考えています。私たちYMCAの保育園が大切にしてきたことを振り返りつつ、今の時代にかなった教育保育が行えるよう、日々考えていきたいと思ひます。

月主題	いいきもち	
月のねがい	乳児（0.1.2歳児）	幼児（3.4.5歳児）
	<ul style="list-style-type: none"> ・水・土・砂に触れて遊ぶ ・夏の遊びを楽しむ ・夏の生活をゆったりと健康に過ごす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びたい友だちや、やりたいことがはっきりして、遊びが続くようになる ・土・砂・水に親しみ、夏の遊びを楽しむ ・遊びの中で考えたり試したりする楽しさを経験する ・健康に過ごすための生活習慣を身につける